

# 特別支援教育 理論研修会 終了報告

テーマ	「見えるものと見えないものを結ぶ」	
日時	令和6年8月5日(月)	
会場	江別市民会館	
講師	長沼 睦雄 氏 (十勝むつみのクリニック 院長)	
参加者	121名	
研修会 の 様子		<p>「見えるものと見えないものを結ぶ」というテーマで研修を行った。82名の参加者が言語部門以外からとなり、様々な先生が敏感な気質をもつ子どもたちとの適切な関り方に興味をもっていることがわかった。</p> <p>会場は、熱気に包まれていたが、市民会館の小ホールで、クーラーの効いている中、快適に研修することができた。</p>
		<p>講演前半は、医療関係者の視点から見た現代人の抱える心身の健康の問題について説明があった。後半は、心の仕組みと癒しについてわかりやすく、実践につながる方策がたくさんあった。特に、心の傷にはジャッジせず、しっかり話を聞きマイナス感情を小さくすることが大切と話されていた。</p>
		<p>質疑応答では、参加者から教育現場の生の声が多数出された。「Q.学級の中に敏感すぎる子どもがいます。どういうことに気を付けたらいいか?」「A.自覚がないことが多いので、どの感覚に過敏かを周りが気付いてあげることが大切。」「Q.どんな声かけが有効か?」「A.その子を変えようとしな。自己否定にならない言葉をかけることが大切。」</p>
		<p>代表挨拶では、「子どもの感覚等、目に見えないもの、心の中のものに目を向ける」「子どもの内面や背景に目を向けて柔軟に丁寧に対応する」等、子どもの捉え方が広まったことに感謝の言葉があった。また、心が元気で、自分を大事にする子どもを育てるために、教職員は多忙な中でも、「心を元気にしていきたい。」と話を結んだ。</p>
		<p>アンケート結果を見ると、「学校現場とはまた違った医療関係者の視点から見た現代人の抱える心身の健康の問題についてお話が聞けて、新たな知見を得た」「表面的に表れている症状は、根っこの部分の要因に目を向けることや、心の傷にはジャッジせず、しっかり話を聞いてあげることによってマイナス感情が小さくなるのが現場で生かせそうだと感じた」等、実践に生かせようという前向きな意見が多かった。</p>